

地域ニュース



市内

SHINAI

産経新聞社会部大阪総局
〒556-8661
大阪市浪速区湊町2の1の57 TEL06(6633)9734
osaka-iken@sankei.co.jp FAX06(6633)9738

命を守る現場 学生が迫る

大阪成蹊大

摂津市の広報誌 特集記事担当

大阪成蹊大学(大阪市東淀川区)の学生らが特集記事の構成を担当した摂津市の広報誌「広報せつつ」10月号が、発行された。「消防×救急」をテーマに、5月から企画を進め、関係者に取材を繰り返すなどして「若者の視点で命を守る現場に迫った」という。6ページの誌面は読み応えがある。

特集記事は、連携協定を結ぶ同大と摂津市が官学連携活動の一環として取り組



摂津市広報誌の特集記事を企画した大阪成蹊大の学生ら

同大経営学部経営学科公共政策コース3年の宮隆晟さん(20)、工藤大暉さん(21)、西村香穂さん(21)、喜多村航己さん(21)の4人が誌面のあり方から取材、編集などに携わった。

誌面は市消防本部職員へのインタビューのほか、火災原因からひもとく火災予防策などを提言。

「救急車は限りある医療資源です」というタイトルで救急車の適正利用を呼びかけているほか、摂津市がハートの形に似ているのにちなんで、救急救命士や消防士らにどのような思いで業務に励んでいるのかを問いかける「あなたの「ハート」は？」と題した企画も掲載されている。

発行にあたり、市消防本部で報告した学生らは「広報誌といえば固いイメージを持たれがちなので、学生の目線でわかりやすく伝え、市消防本部の要望にも応えるにはどうしたら良いのか何度も悩んだ」と振り返った。そんな苦労を重ねて「ゼロからのスタートでしたが、今までにない誌面ができたと思います」と笑顔で振り返った。

これを受け、森山一正市長は「学生、若者の立場で楽しい誌面を作り上げた成果はすばらしい。市民の反応を見て、今後の展開を考えたい」と話した。

市によると、広報誌は約4万5千部を複製し、市内に配布される。



消防活動について取材をする学生たち。「若者目線」で取り組んだ「いすれも摂津市消防本部